

第63号 令和2年7月発行



一般社団法人
全国ママさんバレーボール連盟

〒631-0823 奈良市西大寺国見町1丁目6番5号 明光ビル202号
TEL 0742-47-7090 FAX0742-47-7099

明るい輪

50年の祭典



一般社団法人 全国ママさんバレーボール連盟

代表理事・会長 中西 壽子

「第50回記念全国ママさんバレーボール大会」は建国の聖地、奈良県橿原市に於いて開かれました。

令和元年（二〇一九）八月一日（木）晴のち曇り、気温36・6度、橿原神宮前のホテルTHA KASHIHARA会場には、お祝いの花が、花と一杯飾られて、小走りの役員たちが張りつめた空気を漂わせていました。

高円宮妃久子殿下をお出迎えの正面玄関ロビーでは一目拝顔しようと、早くに到着したチームとその応援団や役員たちが、いきいきそわそわと待ち構えている様子でした。

妃殿下のご到着でロビーは厳肅なムードに一変し、大勢の拍手と地元代表チームが「こんにちは！」と持ち前の明るい声をとどかせて、愈々第50回全国ママさんバレーボール大会の扉が開かれました。

開式通告と共に、笑顔の素敵な妃殿下の御入場。場内に張りつめた空気が一層たかまります。そして、妃殿下のお言葉をお聞きする時、その清々しいひとこと一言に全国ママさんバレーボール大会のキャリアに相応しい感動を覚え、素晴らしいセレモニーとなりました。幸運にも今回参加できたチームの満足度も上がり、感動の開会式は終わりました。



大会名誉総裁 高円宮妃久子殿下

胸をとどろかせて、お祝いの会に入りました。

奈良時代から一三〇〇年間の雅楽の世襲演奏家、東儀秀樹雅楽師の演奏です。筆楽（ひちりき）の音色に日本古来の雅楽の演奏に引き込まれた一時間でした。全身を耳と傾けて敬愛にも似た旋律に感動し興奮さめやらず、感激の余韻を残したまま幕は下りました。

そして翌日のことです。八月二日（金）晴のち曇り、気温36・9度、五條市シダリアアリーナ。橿原市から南へ40分。高円宮妃久子殿下のお手植えによる、50回大会記念植樹式でした。猛暑と天候不順を案じた挙句、思いついたのが、体育館の舞台で行う植樹式でした。植木は奈良の都の「八重桜」です。妃殿下のお手植えは、チームの皆さんに見守られて、学童2人のお手伝いによって行われました。ママさんバレーの未来に美しい花を咲かせてくれますようにとチーム全員が苗木を見守りながら祈りを込めた植樹式でした。

植樹が済みその後のフィナーレには、和太鼓芸能集団「舞太鼓あすか組」による演奏が行われました。和太鼓の神髄、魂の打ち込み！とプロモーションを掲げている世界的にも有名な楽団です。和太鼓演奏は、熱血漢のパフォーマンスに優雅で且つ圧巻の息も切らさぬ迫力で響きわたり、場内一杯、興奮と感動に沸き立っていました。エンディングに起こった会場からの拍手喝采は、和太鼓に負けないくらいの力が籠っていました。きつと力強い勇気が与えられたからでしょう。

こうして、第50回記念全国ママさんバレーボール大会のセレモニーはすべて終り、ここからチームが主役となる試合が始まりました。「二生一度だけ参加できる大会」として、普及を目的に始まった旗印の大会でした。現在は、「生涯ママさんバレー」を提唱し実践しています。素晴らしい活動を生活の中に取り入れて大

切に頑張ってください。

ママさんバレーに出会って、仲間に出会い、目的を共有する喜びに出会って、たくさん仲間の笑顔に出会いました。家族も明るくしています。そして、社会を明るくしています。いつまでも健康でママさんバレーを続けていきましょう。

50年間、ご支援、ご指導、ご協力いただきました各方面の皆様から感謝を申し上げます。次への出発に向かって参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

時代に合わせ しなやかに



朝日新聞オリンピック・スポーツ戦略室

室長補佐 梶谷 卓司

高円宮妃久子殿下を、近鉄橿原神宮前駅のホームにお迎えしたのは、昨年八月一日の昼前のことでした。熱帯夜が明けた奈良県地方はとびきりの晴天で、もちろん真夏日（奈良市の最高気温は35・9度）。いつも通り涼やかな笑顔で列車を降りられた久子さまを、全国連盟のみならずと並んで、汗だくになってお迎えし、第50回の大会が始まりました。

ともに大会を主催させていただいて朝日新聞の社員として、全国ママさん

といえは真夏の風物詩、と思ってきました。真夏の大会になったのは、第2回大会からです。背景には時代の要請がありました。

記念誌「ママさんバレー20年の歩み」には「第1回大会は四月に行われたため農繁期など



東儀秀樹雅楽師 演奏風景



燦然と輝く！

と重なり出場できないチームもあったので、今大会より夏休み中に変更となったとあります。第2回は一九七一年七月二十七日から、東京駒沢で行われました。この大会は、チーム編成や参加者資格にも工夫したことで、接戦が増え、盛り上がりつつあります。その後一時、九月開催となったこともありましたが、夏休み中の開催を望む声が多く、39回大会からまた真夏の大会として定着しています。一九七一年といえは、日清食品のカツプヌードルが発売され、長寿テレビ番組「新婚さんいらっしゃい」の放送が始まった年です。長く変わらないものがある一方、半世紀で大会平均年齢は8歳上がり、夏の体感気温もずいぶん高くなりました。出場選手や家族のみならずの体調に十分配慮した大会運営や、息の長い健康づくりが、とても大切な時代になっています。

50回大会で、心室細動を起こした人への救命機器、AEDの普及啓発に力を入れたり、空調の利いた室内で開会イベントを行ったりしたのは、全国連盟の工夫のあらわれかとも思います。変わりゆく時代の要請に向き合い、これからもしなやかに、心をひとつに合わせ対応して行っていたきたいと思います。

さんバレーボール大会



舞太鼓

トリを務めたあすか組の「舞太鼓」ステージで乱舞太鼓を轟かせ、人も物も震わせて幕にな

令和元年ママさんバレーボールの都道府県代表のチームが集う全国大会は、50年を迎えた。関係者すべての皆様、誠におめでとうございます。
高円宮妃久子殿下ご臨席の上に「おことば」を戴き、恒例の開会式は史跡豊かな橿原市のホテルで催されました。続いて、「お祝いの会」へ。雅楽界第一人者の東儀秀樹氏が奏でる妙技に酔いしれました。
翌午前もお祝いは続き、吉野川流域の五條市「シダーアリーナ」で妃殿下お手植えの「植樹祭」が厳かに執り行われました。樹木は「奈良八重桜」「俳人松尾芭蕉も詠んだ「奈良七重七堂伽藍八重桜」が活かされています。

つても興奮は収まるところを知らず。余韻を引き摺りながら一二〇〇人の選手競技役員は、午後の「試合」に備えて移動、半数は橿原市の「ジェイテクトアリーナ奈良」へ向かいました。
46年間自主運営してきたこの大会は、全国ママさんバレーボール連盟が直轄運営に当たるもので、記念事業となれば特別な行事が加わるものの、しっかりとした演出と親交は「お手のもの」と感じました。
本部を奈良県に置く中西壽子会長が、五條市に建立間もない体育館「シダーアリーナ」の存在を知ったときの喜びは想像するに余りあるものがあります。森林浴をしているかのように感じられた木の香気、奈良の県木である「杉（cedar）」と「檜」を随所に使ったアリーナは、名の如く立派な「杉の室内競技場」でした。
ゲームの世界に目を転ずれば、昨今の選手概してなんと体の動きが良いことか。経年を感じさせないプレーが続出し、見惚れるような好プレーが増えています。この先も冬季、いそじ、こどぶき更におふく大会へと続く、生涯バレーの道を歩み続けましょう。
全国ママさんバレーボール連盟
顧問 砂田 孝士

第50回全国ママさんバレーボール大会を振り返って



朗報です 名誉総裁をお迎えいたしました

高円宮妃久子殿下におかれましては、令和2年5月1日付けで、一般社団法人全国ママさんバレーボール連盟名誉総裁として御就任賜りました。
一般社団法人全国ママさんバレーボール連盟は、更なる発展に努めて参ります。

第50回全国ママさんバレーボール大会に思う

★第50回全国ママさんバレーボール大会を終えて★

高円宮妃久子殿下のご臨席を賜り、第50回記念全国ママさんバレーボール大会を、盛大に肅々と大きな感動と共に終えることができましたことに、深く感謝申し上げます。

生涯スポーツを目標に掲げ常にママさんスポーツ界のリーダーとして、数え切れない程多くの方々に触れ合い、輪を広げて来ましたこの大会の50回の節目に相応しい思い出の詰まった大会となりました。中西大会会長の「全国大会は競技することだけが目的ではありません。」という、たおやかな心強いエールに支えられ連盟の企画力、行動力の結集が大会を成功に結びつけたと感じています。

★全国大会が動いた第一歩★

第50回記念大会が奈良県で開催されました。50年の貴重な歴史を感じる一方、先輩方の弛みないご尽力と継続のご苦労に深く感謝申し上げます。新しい時代を担う一員として、この歴史ある大切な大会を、更に発展するよう努力しなければならぬと痛感いたします。



50回だヨ！全員集合

ふり返ってみますと、第1回目から東京で一極開催であった全国ママさんバレーボール大会を第34回大会から各都道府県での開催地が持ち回りになりました。その理由はママさんバレーの活性化ということでした。最初のスタートが大阪府での開催でした。

ふり返ってみますと、第1回目から東京で一極開催であった全国ママさんバレーボール大会を第34回大会から各都道府県での開催地が持ち回りになりました。その理由はママさんバレーの活性化ということでした。最初のスタートが大阪府での開催でした。
“Break The Limit”
（更なる高みへ挑め！限界突破！）
大阪府ママさんバレーボール連盟
会長 守屋 奉子

係わってくださいました全ての方々の頼もしい姿、そして快くご協力、ご声援をくださいましたチームの皆さんの温かい眼差しと笑顔が、余裕のない私の大きな力になりました。この大会で記念植樹をしました五條公園の八重桜の見事な成長を楽しみに、今後の全国ママさんバレーボール大会を、今までの歴史を尊重し、新鮮なアイデアを発掘しながら、一層発展させて行きたいと思っています。最後になりましたが、誠心誠意惜しみないご協力を頂きました奈良県ママさんバレーボール連盟の皆様、心よりお礼申しあげます。
大会委員長 三井 恭子



第50回記念

全国ママ

植樹式「お手植え」

★親子の生涯の思い出に★

二〇一九年八月二日、大輪のひまわりが一面に咲き誇る五條市上野公園。真新しい五條市総合体育館シダーアリーナにおいて、全国ママさんバレーボール大会第50回記念植樹式に参加させていただきました。



植樹式

★貴重な経験に感謝★

この度は「第50回記念植樹式」のお手植えに参加させていただきありがとうございます。

教わった通りにできるかすごく不安でしたが、いろいろな方に「頑張っただけ」とお声をかけてもらい、すごく嬉しかったです。

植樹式は思っていたよりも会場にたくさんの方々が来てくれて緊張しましたが、「うまくできて妃殿下からは上手にできましたね」とお声をかけていた

シダーアリーナの天井は奈良県産の杉、檜を使って、二段の格子状に組み上げられたダイナミックな構造で、50回記念大会にふさわしい会場でした。植樹式のお手伝いをさせていただいた小学5年生の息子は、植樹式というものを知らずでしたが、ちゃんと務まるのか心配でしたが、前日にリハサルで練習して少し不安は解消されたようでした。

そして当日は七〇〇人もの選手の方々が集まる会場で、緊張の中50回記念植樹式が始まりました。式次第がすすみ、植樹が始まると舞台の後ろの幕があがり、上野公園の景色が一気に広がって、あたかも公園に舞台が浮かんでいるかのような風景になり目を見張りました。息子は緊張しているようでしたが、高円宮妃久子殿下が優しく笑顔で小学生二人に声をかけてくださっていたので、和やかにお手伝いできたように見えました。このような記念すべき植樹式に参加させていただいたことは、親子ともども生涯の思い出となりました。ママさんバレーボール連盟の益々のご発展をお祈り申し上げます。

千原 登志子

だき、私は「はい」と答え、「私もやればできるんだ」という自信ができました。

ふつうではありえない、一生思い出に残る経験をさせてもらい、妃殿下とお手植えしたヤエザクラは私と一緒に成長していくんだと思うと、すごく見に行きたくなったので、母と祖母と大きくなった木をまた見に行こうと思います。

本当にありがとうございました。

狩野 風咲

第9回全国ママさんバレーボール冬季大会

冬季大会に思うこと

二〇一九年十二月六日に豊見城（とみぐすく）市民体育館で開催された開会式に参列させていただきました。ママさんバレーの全国大会で沖縄県に来たのはこれで2回目です。やっぱり沖縄は最高でしたし、沖縄県ママさんバレーボール連盟の方々にも大変お世話になりました。とても癒されました。



サア！いこう

開会式は、今回の開会式も最高でした。沖縄情緒と全国から勝ち抜いてこられた選手の方々の元気が相まって、会場が徐々に興奮に包まれ、最後はなぜか大爆笑が起こる様子は、

冬季大会に思う

整然とした中にも華のある入場行進、開会式、その後の交歓会では未来を担う地元高校生による郷土芸能や選手参加のゲーム等創意・工夫ある内容で会場が盛り上がりました。

二日目からの競技は、各県代表選手のレベルの高いプレーに一喜一憂の連続でした。

沖縄の方言に「イチヤリバ・チョーデー」（出会えばみな兄弟だ）があります。今大会に参加の皆様にもきくと、沢山のいい出会いがあった

て、沖縄に来られたことと思います。（家族、友人、職場、チームメイト、大会運営に関わられた方々等）恵ま



ナイスプレー♡

いやはや、その場にいる者にしか体感できない特権でした。

思えば全国ママさんバレーボール連盟が一般社団法人化する際に、偶然お声がけいただき、法人化をお手伝いしただけの私ですが、元気な、いや元気づける方々が集う全国大会に魅せられ、もう10年近くもお付き合いをいただいております。本当にありがとうございました。

最後に、いつも感じていることです。が、バレーボールが大好きだという純粹な気持ちで、選手の方からも、役員やスタッフの方からもわかりやすく伝わってきます。そんな元気で明るい皆様は本当に素晴らしいです。また元気をいただきに参ります！

全国ママさんバレーボール連盟

顧問 菅原 正明

れた環境に感謝を忘れないで下さい。これからも健康で怪我なく生涯現役を目標に日々精進されますよう願っております。

私はこれまで、全国いそじ・ことぶき大会の開催地の役員として経験いたしました。が、今大会は参与としての役職で参加しました。選手の皆様とは一味違った緊張感と興奮の四日間を過ごせ、応援に来られた旧知の方々とお話できましたことも、永年ママさんバレーボールを続けてよかったと思える出会いがあったからです。

今回、この機会を下さった「ママさんバレーボール連盟」に心より感謝を申しあげますとともに、益々のご発展と関係各位のご多幸を祈念申しあげます。

沖縄県ママさんバレーボール連盟

顧問 仲嶺 典子

ま〜みんフェスタ V o i . 2 で感じたこと

初参加は二〇一八年の「第1回ま〜みんフェスタ」でした。私にとつてバレーボールは高校の体育の授業以来の競技でした。そんな私をベテランの方々が、心温かくチームの仲間に入れてくれました。「その日初めてお会いする方とチームを作り試合する」「バレーボールを心から楽しむこと」これがこの大会の全てです。試合の勝ち負けは一切関係なし。しかし、勝負の世界でプレイをしてきたママさん達とはにかく熱く、試合に情熱を傾けます。

私は80歳を超えたママさんバレーボールプレイヤーに守られながら試合を終えました。2日間、心から笑い、楽しめたのが「ま〜みんフェスタ」でした。しかも、豪華な参加賞や賞品まで頂けて！こんな



準備体操



おじいちゃんも若がえり



真ん中のお父さん



全員集合

なに充実したスポーツの大会はないと思いましたが。もちろん第2回目も参加するつもりでしたが、隕石が当たったごとく？この私が「第2回ま〜みんフェスタ」の大会委員長に任命されることとなってしまいました。開催地は岐阜県下呂市です。温泉で有名なこの地。老舗の旅館での前夜祭では、ママさんバレーボール芸人「シヤカリキ」や「日本殺陣道協会」の皆さんが盛り上げてくれて本当に楽しい時間になりました。

第1回の噂を聞いて準備してきた選手の皆さんがコスプレ(?)にも力を入れて参加、加点の際のパフォーマンスにも盛り上がりを見せました。なかでも往年の国際審判員であった砂田顧問の変装審判員としての名ジャッジは、話題と笑いを誘い会場全体をなごやかにしました。とにかく、参加することに意義があるこのま〜みんフェスタ。次回も皆様の輝く笑顔とお会いして一緒に楽しめたら嬉しく思います。

大会委員長 林 妙子

おふく大会は世界一

全国大会が四国高知県へ上陸したのは14年ぶりのことです。チーム数は24チームと言ってみれば全国都道府県数の2分の1でした。ところが、この24チームは、ママさんバレーの大御所70歳以上という年齢資格です。ずっしり重いキャリアと貫禄十分な方々のチームです。私たちの緊張は終始緩むどころではありませんでした。しかし、大会期間中の皆さんは、こちらが思う以上のお気遣いをして頂きました。やさしい労い

の言葉や挨拶、お礼の笑顔やお手紙等、これぞママさんバレーの産物と思えてなりません。ママさんバレーを続けて来てよかった！全国ママさんバレーボールおふく大会をお引き受けしてよかった！と、高知県ママさんバレーボール連盟一同、心から嬉しく思っております。

ありがとうございます。

高知県ママさんバレーボール連盟
理事長 坂本 由香

一般社団法人

全国ママさんバレーボール連盟が
LINE 公式アカウントに登場！



お役にたつ情報を
受け取るには、
こちらのリンクから
友だち追加して
ください。



新型コロナウイルス感染症

自粛生活から見えたこと

全国ママさんバレーボール連盟からの力強く心温まるメッセージに、私達のチーム全員が感動し心動かされました。その言葉に限りなく大きな勇気と元気をいただき皆感謝の気持ちでいっぱいです。人々に勇気と希望を与える言葉の持つ力の大きさや偉大さを感じながら、今一人一人が見えない糸で繋がっていることを実感しています。そしてグループラインを通じて、この大変な状況の中、自分達ができることをしっかりとやっていくと、チーム皆で改めて強く心に誓いました。

今は誰もが我慢の時。ある意味自分との闘いかもしれません。だけれどみんな一人じゃない。こういう時だからこそ、周りの人達と互いに励まし支え合って、立ち足はかかる大きな壁を乗り越えていかなければと思っています。幸いなことに、私達のチームは3年前、冬と夏の全国大会に続けて出場することができました。いそじの全国大会に出場したメンバーもいます。喜びも悲しみも悔しさも教えてもらったあの場所にもう一度立ちたい！練習が再開された時、久しぶりに触るボールの感触、自分達の感情に想いを馳せながら、またこれまでとは違った気持ちでバレーと向き合うことができるかもしれせん。

まだ日本はもちろん世界各地において、多くの人々が自分の身を危険にさらしながら、それぞれの場所ですれぞれの闘いを繰り広げています。それは決して他人ごとではないこと！大袈裟な表現ではなく、私達一人一人の行動が世界を救うという、大きな責任と自覚を持って臨まないと、この見えな巨大な敵との闘いには勝てません。

ん。チームメンバーの一人も言っていました。が、何事も『やらされている』と思えばそこに『苦痛と困難』が伴います。大切なのは『自分からやらなければならぬ』という自覚と決意ではないでしょうか。そばにいる愛する人、大切な人のために何が出来るかを問いかけたとき、自ずと答えは出るはず。連盟本部の方々もきっとそんな想いを込めてこのメッセージを綴られたのではないのでしょうか。いろんな土台からぐらつき始めています。私達が所属するママさんバレーボールチームのバックにこのような素晴らしい母体・組織があるというのはとても心強く、また誇りでもあります。まだまだ厳しい状況が続くかと思われませんが、バレーで培った精神でこれたらず、諦めず、この困難に立ち向かっていこうと思います。一日でも早くこの世界が平穏な日々を取り戻し、私達の大好きなバレーができる日が来ることを願ってやみません。

後関ママさんバレーボール
チーム一同

編集後記

日本中の国民がかつて経験したことのない不安な自粛生活に、慣れて少しは要領も得てきたようです。

「まるい輪」63号をお届けします。発行が遅れましたこと、ご容赦ください。全国ママさんバレーボール大会の50回記念について、海を渡って行ったおふく大会、空を飛んで行った冬季大会についてなど、ご寄稿いただきました方々に厚くお礼を申し上げます。

(広報担当)

写真提供 (株)プロフオートサニー